



静岡県知事
川勝 平太

‘ふじのくに’静岡県の 「地域外交」と「多文化共生」

静岡県の地域外交は、1982年に中国の浙江省との間で始まりました。日中国交10周年の機会をとらえたものです。浙江省は、茶やミカンを特産物とするなど静岡県と似ており、また、絶世の美人西施の名を冠した景勝地「西湖」や王羲之の序で知られる「蘭亭」などで有名です。

以来30年近く交流を深め、2010年には浙江省に隣接する上海で万博が開催されるのにあわせ、富士山の標高にちなんで上海・浙江省を訪れる「ふじのくに3776友好訪中事業」を実施し、9月には早々と目標の3,776人を達成いたしました。中国政府からは、こうした交流実績を含めて‘地方政府間関係のモデル’という評価を受け、「対中国友好都市交流提携賞」を受賞いたしました。

県内には、外国人県民が2009年末で約93,000人、県総人口に占める割合は2.47%で、県民の約40人に1人が外国籍です。本県の特徴は、ブラジル人県民の割合が全国一高いことです。この状況に鑑み、「ふじのくに多文化共生推進基本計画」を策定することといたしました。

ところで、1800年頃まで、ヨーロッパでは外交は国王の専管事項でしたが、国民国家が生まれ、世界各地にひろがり、日本も明治維新で国民国家を形成しました。以来、外交は政府が担っております。20世紀には、国際連盟につづき国際連合ができ、国連加盟国は190余になり、国家政府間の関係が国際関係では主流です。

一方、第一次大戦前に国際自治体連合ができ、第二次大戦後には世界都市連合が生まれ、両者が2004年に合体して、都市自治体連合（UCLG）が成立しました。本県では浜松市がメンバーですが、そのような国際組織に入らなくても、日本各地で外国と姉妹関係をもつ自治体が20世紀末から急増しております。1989年に768だった姉妹都市提携件数は2009年には1,586に倍増し、世界的潮流となっております。

2010年、日本政府は、普天間基地移設問題でアメリカに不信感をもたれ、尖閣諸島沖漁船衝突事件で日中関係が難しくなりましたが、‘ふじのくに’静岡県と浙江省との関係は、県省防災会議を共催するなど、友好的互恵・互助関係を深めております。

国家同士の争いを大きくしないためにも地域外交は重要です。本県では、中国浙江省のみならず、モンゴル国のドルノゴビ県や韓国の忠清南道との友好提携を検討しており、アメリカにおいても地域外交を推進していく予定です。

海外においては、地域外交を推進し、県内においても外国人県民との共生を実現することにより、平和に貢献するのが本県の方針であり、2011年は地域外交を本格化いたします。